

令和元年度 県管理河川における水質事故について

(1) 水質事故の発生件数について

県管理河川及びその周辺における水質事故発生件数は、令和元年度は16件発生しており、過去5ヶ年では最も少なくなっている。

(2) 水質事故の発生原因について

令和元年度は、ホームタンクのパルプの閉め忘れ等による「原因者の不注意」が4件、施設の老朽化など「施設等の不備」が2件、原因が「不明」であるものは10件であり、原因不明が半数以上を占める結果となった。

また、原因者を特定できたのは6件で、うち法人が3件、個人が3件であり、原因物質の多くが灯油であった。

平成27年度～令和元年度 原因別発生件数

原因	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
原因者の不注意	7(33%)	4(17%)	6(29%)	5(19%)	4(25%)
施設等の不備	3(14%)	7(30%)	8(38%)	10(38%)	2(13%)
交通事故	0(0%)	4(17%)	2(10%)	0(0%)	0(0%)
不法投棄	0(0%)	1(4%)	1(4%)	1(4%)	0(0%)
不明	11(52%)	7(30%)	4(19%)	10(38%)	10(63%)
合計	21	23	21	26	16

